

まちづくり交付金 事後評価シート
北部健康地区

平成21年12月

愛知県尾張旭市


様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	尾張旭市		地区名	北部健康地区			面積	778ha			
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	2,355百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	下水道(旭前城前)、地域生活基盤施設(旭前駅前自転車駐車場整備)、土地区画整理事業(旭前城前、北原山)											
		提案事業	地域創造支援事業(藤池保育園増築事業、茅ヶ池保育園新築事業、山辺の散歩道整備事業、スポーツ普及事業、WHO関連健康推進事業)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
		提案事業	なし											
	新たに追加した事業	基幹事業	・道路(市道霧ヶ丘線) ・道路(市道旭ヶ丘北山1号線) ・道路(市道尾張旭駅南北線) ・下水道(鳴淋雨水幹線) ・高質空間形成施設(三郷駅前スロープ設置)			【霧ヶ丘線】市道霧ヶ丘線の東名印場橋部分の供用開始に向けて道路改良が必要となったため、新たに追加。 【旭ヶ丘北山1号線】早期に土地区画整理区域外の道路についても交差点改良が必要になり新たに追加。 【尾張旭駅南北線】市民からの要望等により、駅北側及び駅南側にエレベーターを基すつ設置することを追加。 【下水道】土地区画整理事業の進捗により、事業の前倒しが可能となったため追加。 【高質空間形成施設】市民からの要望等により、スロープの設置を追加。			事業の追加による数値目標への影響は小さいと考えられるため、数値目標の変更はない。					
提案事業	・地域創造支援事業(バス購入事業) ・事業効果分析調査(事業効果分析調査) ・まちづくり活動推進事業(公共交通網整備事業)			【バス購入事業】ルートに適したバスを購入するため、新たに追加。 【事業効果分析調査】事後評価事業をより精度の高いものにするために、新たに追加。 【公共交通網整備事業】ルート数を増やし実証実験を行うため、新たに追加。			事業の追加による数値目標への影響は小さいと考えられるため、数値目標の変更はない。							
交付期間の変更	当初	平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	変更なし												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	指標1	健康だと思える市民割合	%	83.4	H14	90	H21	モニタリング	評価値	81.3	x	あり	健康づくり事業を推進した結果、健康づくりへの参加者数の増加が見られるため一定の効果はあげられたと考えられるが、市民の健康への意識の高まり、特定健康診査の開始といった環境の変化などから、市民の健康と判断する基準が高くなったと考えられ、目標値は未達成の見込み。	平成23年3月
	指標2	健康づくり教室・元気まる測定参加者数	人	3,707	H14	5,500	H21			5,625		あり	参加者数は順調に推移しており、目標値と見込み値の差は2.3%程度であり、見込み値は目標値に達している。	平成22年4月
	指標3	秩序ある街区となっている市街地面積割合	%	40	H14	53	H21			53.3		あり	区画整理事業において着実な事業進捗が図れた。特に印場地区については計画通り換地処分できた事により指標の改善に直接貢献した。	平成22年4月
	指標4	保育園満足度	%	85.3	H14	90	H21			90.8		あり	保育園の整備事業が順調に進んだことが直接的効果をあげている。	平成22年10月
	指標5	散策路の整備率	%	4	H14	100	H21			100		あり	山辺の散歩道整備事業が順調に進んだことが直接的な効果をあげている。	なし
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	健康増進に取り組んでいる市民割合	%	36.4	H14					40.5		あり	まち交期間直前の値から微増しており、健康づくりの事業推進による一定の効果はあげられたと考えられる。	平成23年3月
	その他の数値指標2	バス利用者数	人	70,540	H17					151,015		あり	バス購入事業や公共交通網整備事業の実施により、公共交通の利便性が向上し、直接的効果をあげている。	平成22年4月
	その他の数値指標3											なし		
4) 定性的な効果発現状況	茅ヶ池保育園新築事業では、保育園の新築に伴い、新たに一時保育の実施が可能になった。当該利用者はアンケート調査対象外であるため、定量的に把握することはできないが、これらのサービスも利用者満足度にも貢献したと考えられる。山辺の散歩道整備事業の実施により、イベント実施、山辺の散歩及び山辺の清掃ボランティア等の市民の新たな外出機会が創出されたため、市民の健康づくりに寄与していると考えられる。													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等							
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	尾張旭市交通問題懇話会を実施(H16年度～H19年度) バスルート増設に向けた会議、乗車実験の開催、購入車種の検討			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			当懇話会は、H19年度に一旦完結した。その後、新組織(尾張旭市地域公共交通会議)を立ち上げ、継続して公共交通に関する検討を行っている。						
持続的なまちづくり体制の構築	山辺の散歩道の清掃、整備等、ふるさと園の整備 山辺の散歩道散策と自然観察会及びコース清掃、里山の手入れの活動等			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も継続して、取り組みを実施する予定である。							


様式2-2 地区の概要

北部健康地区(愛知県尾張旭市) まちづくり交付金の成果概要							
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
(大目標)目指します。健康都市 「健康」は市民全ての願いであり、「健康づくり」は本市が最も力を入れている施策です。「健康づくり」として保健・医療の分野にとらわれることが多く、市民も行政もそちらに関心が集まっていた。もちろんその部分が重要であることは言うまでもありませんが「健康づくり」をより一層進めるには環境・教育・まちづくりなどさまざまな分野からの参加が必要です。本計画では「みんなで支えあう健康のまちづくり」・「心健やかに暮らせる安心・安全のまちづくり」・「自然が身近に感じられるやすらぎの環境」など健康に欠かせない3つの目標に向かって事業を進めていきます。	健康だと思ふ市民割合	単位: %	83.4 H14	90 H21	81.3	H21	
	健康づくり教室・元気まる測定参加者数	単位: 人	3,707 H14	5,500 H21	5,625	H21	
	秩序ある街区となっている市街地面積割合	単位: %	40 H14	53 H21	53.3	H21	
	保育園満足度	単位: %	85.3 H14	90 H21	90.8	H21	
	散策路の整備率	単位: %	4 H14	100 H21	100	H21	
	健康増進に取り組んでいる市民割合	単位: %	36.4 H14		40.5	H21	
	バス利用者数	単位: 人	70,540 H17		151,015	H21	


山辺の散歩道の整備



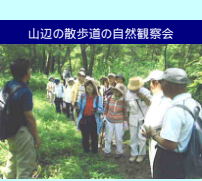
WHO関連健康推進事業




自転車駐車場整備(旭前駅前)



山辺の散歩道の自然観察会

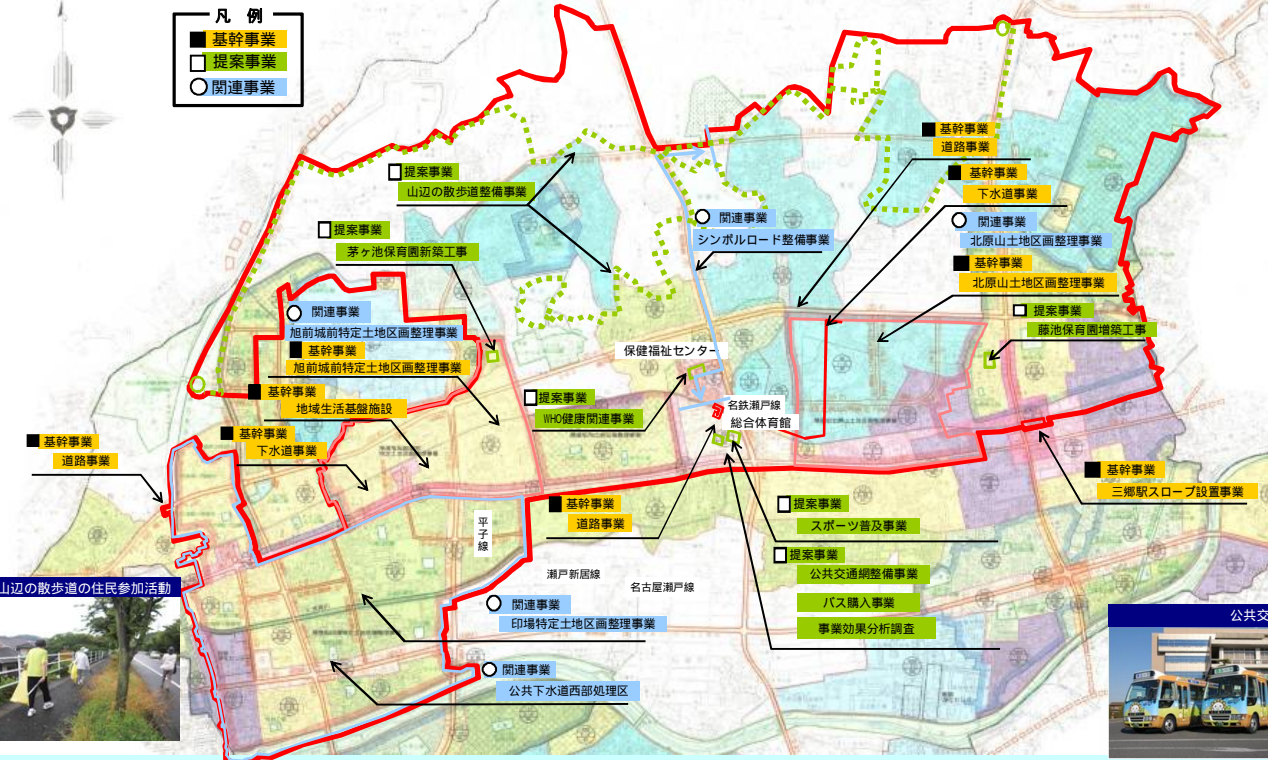


山辺の散歩道の住民参加活動




凡例


- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業




尾張旭駅前のエレベーター設置




茅ヶ池保育園の新設



三郷駅のスロープ設置



公共交通網整備事業等



まちの課題の変化	スポーツ普及事業、WHO関連健康推進事業や山辺の散歩道整備事業により、健康に取り組む市民が増加し、健康に対する意識の向上が図られた。しかし、健康だと思ふ市民割合の目標値は未達成である。健康意識の向上によって健康に対する意識と実態との乖離が生じている。 土地区画整理事業、道路事業等の公共空間の整備が進み、安全なまちづくりがある程度実現できた。しかし、下水道や土地区画整理事業等の整備箇所が一部取り残されており、引き続き整備を行う必要がある。 保育園の新築工事及び増築工事により、環境整備がある程度実現できたが、保育園の他の施設では老朽化が進み、施設により環境水準に乖離が生じている。また、待機児童解消に向けて、減少傾向に転じさせることができたが、解消に至っていない、引き続き、待機児童に対するサポート実施を行う必要がある。 スポーツ普及事業、WHO関連健康推進事業や山辺の散歩道整備事業により、市民の健康づくり・まちづくりへの実践意欲が向上した。それによって、健康に対する意識の向上及びまちづくり活動の活性化につながった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	健康関連事業や散歩道整備事業によって得られた効果を維持・向上させるために、引き続き健康関連事業を促進し、今後は市南部の矢田川河川敷の散歩道整備事業に取り組む。また、市民の健康への高まり等の環境の変化などから、市民の健康と判断する基準が高くなったと考えられ、実態と意識の乖離が発生している可能性が高いため、引き続き健康関連事業を推進し、健康に対する「意識」の向上のみならず「実践」も促す。 基盤整備事業等によって得られたまちの健康に対する効果をさらに向上させるために、引き続き、区画整理事業や公園事業等の基盤整備事業に取り組む。 保育園整備事業によって得られた利用者の満足度をさらに向上させるため、市内の他の保育園の耐震改修事業に取り組み、子育て環境の整備水準の乖離解消を図る。 散歩道整備によって市民活動が活性化したことを維持していくために、地域住民の活動の場となるコミュニティ施設の整備に取り組む。